
束の間の幸せ

星結

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東の間の幸せ

【Nコード】

N6402Z

【作者名】

星結

【あらすじ】

孤独なやよいに言い寄る西田にこれが幸せなのかとやよいは思い、西田と一緒に成りたいと考える様に成る

心のトリップ

付き合つて。

そう西田に言われてやよいは

暫くして承諾した。

何故ならば都会育ちの弥生は

この北陸と云う土地に恋人どころか友達すらも居なく、孤独な日々を送つて居た。

暫くは楽しい日々が続いた。

北陸で一番の繁華街、金沢の片町で

やよいと西田は毎週末会い、呑み歩く。

目立つタイプのやよいは、一度でも行つた事が有る飲み屋に行けば、大概店の人間に憶えられ、至る処でやよいさん、やよいさんと声がかかる。

福井の田舎が地元でそこしか知らない西田は、自分には無い所が多い華やかなやよいにどんどん惹かれていく。

きちんと化粧を施した、やよいの風貌は確かに美しく、華やかで人目を引く

だが、家族や友人等に恵まれず、ずっと彼氏も作らずに孤独を

貫いていたやよいに、素朴な西田は安心を感じさせる空気をやよいに与えていた。

時を重ね、やよいは彼氏が居るといふことで有頂天に成り

西田に 「貴方のお家に行ってみたい」と漏らす。

西田は調子良く

「家は何時でも誰でも大歓迎だと答える」

それじゃあ、挨拶にお伺いするわとやよいは品良く地味なスーツに身を固め、御菓子等の土産を手にし、サンダーボードに乗り、金沢駅から芦原温泉迄向かう。

招かれざる客

終電で金沢のお土産芦原温泉駅に付いたやよいを西田は黒いエステイマで迎えた

しかし、「今日は一緒にホテルに泊まるっ」
しきりに西田はやよいにそう言い続ける。

「うちは何時でもウェルカムだから」そう西田に言われ、お土産を用意してスーツを来て金沢から芦原温泉駅迄来たやよいはわけがわからず、その旨を話した

西田「うちの親、スツゴい見栄っ張りやし！」

そんなの構わない！私が貴方の家に行くと言って約束したのに到着した途端にそんなのないわ！

やよいは全く納得出来ない。

やよいは都内に住んでいた時に、六本木のパブと一緒に働いていたルーマニア人のダニエルと以前、婚約をしていた。

成田空港でダニエルの家族の為に、日本酒や折り紙等とにかく日本をアピールした土産物を数万円使い購入し、ダニエルが待つブカレスト迄フライトをした。

ところがブカレストから「ヤシ」と云う名のダニエルの地元に着しても、一向にダニエルは家族に会わせてもくれず、ホテルに何泊

もして軟禁状態にされたやよいは全てをダニエルに問い詰めた。

ダニエルは答えた

「うちの親は厳しいから、皆に内緒で役所に行って入籍しよう。」

やよいは瞬時にダニエルに別れを告げやよいにとっては言語の解るモスクワへ独りで旅立った。

ダニエルは泣いていた。

しかしそれ以上にやよいは怒っていた。

だけど場所が違っただけで状況は全くその時と変わらない。

お前もダニエルと同じだ！とやよいは西田に言い放った

トラウマと決断

時間は夜の11時を廻っていた。

うちは何時でもウエルカムと言いつつスーツを着て金沢から土産を持って来たやよいに対し、実家に入れずにホテルに泊まるうと言いつつ西田にやよいは不満と不信感、そして過去のトラウマを西田に告げる。

やよいはすっかり嫌に成り、結局私は誰にも紹介出来ない様なビッチな女なのかと気分を憤慨させる。

結局私は幸せにはなれないのねとエステイマの助手席の中で不機嫌にやよいは顔を曇らせた。

わかったよ。行こう。その前に少し勇気を下さい。

西田はやよいに口付けをし、やよいを助手席に乗せたまま 実家へと向かう。

宴と失言

やよいは田舎の豪邸に通された。

しかしやよいにはアメリカで生活をしてきた過去がある為（日本と違い、大概の人は金持ちでなくても皆広い家に住んでいる）、豪邸かどうかも気付かず 立派なお雛様まで飾られているのに、そこを普通の家だと思い込んで居るやよいは、幼馴染みの家に入り込む様な様子で気さくに西田の両親に土産を渡しながら挨拶をする。

西田と西田の両親、そしてやよいの4人で酒を呑みながらやよいは持ち前のキャラで明るく楽しい話を豪快に焼酎を水のように呑みながらとにかく陽気に振る舞う。

西田の父親に「痩せている」「酒豪だ」と云われていても大して気にも留めず、やよいにとつての普通の酒の飲み方のペースをつづけ、やよいはけらけらと笑いながらどんどん話を進めていく。

西田の両親はにこやかにやよいをもてなした。

調子に乗ったやよいは

「私田中やよいは、西田さんとは肉体関係は有りません！」にこにこ普通にきっぱりそう話す。

そもそもやよいは普通の人は飲酒量の許容範囲が格段に違うので、大して酔いもせず、言葉にいちいち裏も表も無く、兎に角西田の両親とフレンドリーに、そして本当の家族の様に成る為何でも良いから盛り上げ全員にハキハキ話し好感を得る積もりでも居た。

焼酎のボトルは全てやよいがロックで飲み干し、やよいは西田に布団を別室に引いて貰い、別々に寝かされた。

海外の都会、国内でも殆ど都内に住んでいたやよいに日本の田舎の常識や傾向、文化、普通を良しとする

黙ってる事を美徳とする、自分の出来る事、良い所はアピールしない
そして体裁

全くそれを知らないやよいは自らの造り上げた失敗が何かも全くわからないまま愉しい酒を家族に溶け込んだ積もりでそのまま「何故西田と一緒に寝させてくれないのだろうと」そこだけ不思議に思い西田と離れた部屋で眠りに堕ちる。

狂った齒車

西田家で飲酒を西田、西田の両親、やよいの三人でしていた後に別々に寝かされ

納得が出来なかったやよいだが深くは考えずに朝を迎えた。

ばつちり皆と楽しく仲良く出来た！

やよいはそう思い込んで居た。

そして朝の8時にやよいは 昨日は有難うございました

そう言つて西田家を出て金沢へ帰ろうとした時に

急激で異様な睡魔に襲われ

「帰ります」と言つて数分後には再び西田家で死んだ様に深い眠りに付いた。

西田家の家族は電気屋なので昨夜挨拶を交わした西田の両親はタクシー会社のメモをやよいの枕元に起き

不本意だったのだろう、本当なら用事が済めばさっさと出て欲しかったやよいを起こす事も親しい仲ではないから出来ず、そのままやよいを眠ったままにした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6402z/>

束の間の幸せ

2011年12月29日04時50分発行